

平成25年度第1回「対話と実行座談会」  
 ～介護福祉士を目指す若者たちの思いを聴く～  
 テーマに関して事前に寄せられたご意見の紹介と対応方針

質問テーマ		
ご意見(メッセージ)の概要	県の対応方針	担当課
<p>・介護福祉士の卵である「未来の高知家のヘルプマン」になにか応援メッセージなどがありますか。</p> <p>・若者が介護職に就き、働き続けていくためには、どのような処遇改善が必要だと思いますか。</p>		
<p>「しっかり介護したい現場職員」と「効率的な介護を求める管理者」との行き違いで、まじめで一本気な若手職員が職種転換をしてしまう事案が多くあります。</p> <p>「働きがいのある介護現場」づくりには、施設管理者やスタッフリーダーへの組織経営やコミュニケーション力向上の研修なども重要であると感じました。</p>	<p>施設長等の管理職及び指導にあたる職員等を対象に福祉サービスの質の向上と職員の定着・成長を図るため、職場における人材育成の仕組みづくりや運営責任者・部門責任者としての管理指導能力を習得する研修などを高知県福祉研修センターで実施しています。</p>	高年齢福祉課
<p>私は、独居世帯や仮設住宅の高齢者の「話を聞くだけ」ボランティアをしている者です。その中で お年寄りがよく話してくれるのは、職員さんとの「ふれあい」の話です。</p> <p>今後介護福祉士を目指す皆さんにお願いしたいのは、利用者の心に触れていただきたいことです。同じ目線で、笑ったり、驚いたり、叱ったりしてほしいのです。</p> <p>そんな目配り・気配りのできる「プロ」の介護福祉士になってください。</p>	/	/
<p>知事の座談会のテーマに介護が選ばれるのは画期的。県の本気度が感じられる。</p> <p>また、介護職の重要性・魅力・やりがいをテーマにしたテレビ番組も、高知放送で、9月から始まっていて、これもまた、県の本気度が感じられる。</p> <p>でも、番組も座談会も「やる」ことを事前にPRしないと、多くの県民にとって「やらない」と同じ。県民が本気になる取り組みをしてほしい。</p>	/	/
<p>人としての尊厳を守る介護とは、頭で記憶するスキルや意識ではなく、相手を大切に自然に思う心の素直さによって成せる専門性の高い業務であると思う。</p> <p>現場で段取りや作業効率を学ぶことも必要だが、一人ひとりを認め、心から微笑み、お話ができるには、「人権」を心に浸透させる学習や体験が欠かせないと思う。</p> <p>専門力のある介護職になって、利用者とともに一日を歩み、利用者とともに真の幸福と安らぎがいっぱいの介護をつくって行ってほしい。</p>	<p>虐待や不適切なケアを正しく理解することで”人の尊厳”について考えることができる対人援助の職場における意識の礎づくりを目的とし、経験年数や職種・役職に関わりなく施設・事業所の全職員を対象にした「人の尊厳を考えるベーシック研修」を高知県福祉研修センターで実施しています。</p>	高年齢福祉課